

生き物観察会の取組～丹波篠山市の水辺の生き物～

永井涼太・中沢啓悟・松笠心美（兵庫県立篠山東雲高等学校 自然科学部）

はじめに

篠山東雲高校のある丹波篠山市の河川は武庫川、加古川、由良川の上流に位置している。流域には里山や田畑があり、多くの生き物がすむ環境が残っている。そこで、私たちは地域の小学生に生き物のすばらしさを伝えるために水辺の生き物観察会を行った。

活動内容

7月から9月にかけて観察会を10回行い、合計200人以上の子どもたちが参加した。

(1) 東岡屋子ども会の観察会

実施日：令和5年7月15日(土)

場 所：農業用水路

(2) 西紀ふれあい館の観察会

実施日：令和5年7月27日(木)

場 所：宮田川

(3) 味間奥子ども会の観察会

実施日：令和5年7月28日(金)

場 所：熊野神社の住吉川(図1)

(4) みたけの里づくり協議会の観察会

実施日：令和5年7月29日(土)

場 所：畑川(図2)

(5) たぶち農場の観察会

実施日：令和5年7月30日(日)

場 所：たぶち農場の田んぼ

(6) たんば子ども塾の観察会

実施日：令和5年8月1日(火)

場 所：学校のビオトープ

(7) 篠山環境みらいの会の観察会

実施日：令和5年8月5日(土)

場 所：真南条川(図3)

(8) 丹波篠山市立多紀小学校の観察会

実施日：令和5年8月29日(火)

場 所：篠山川(図4)

(9) 丹波篠山市立城北畑小学校の観察会

実施日：令和5年8月30日(水)

場 所：畑川

(10) 丹波篠山市立城東小学校の観察会

実施日：令和5年9月1日(金)

場 所：曾地川



図1 住吉川



図2 畑川



図3 真南条川



図4 篠山川

観察会の流れ

①自己紹介

子どもたちに呼んでもらうニックネームも紹介する(図5)。

②諸注意

観察中にケガや事故がないように注意する。

③生き物の採集

たも網を使って生き物を捕まえる(図6)。

④生き物の仕分け

水槽やバットに種類ごとに分けて入れる。

⑤生き物の説明

捕まえた生き物について説明する(図7)。



図5 自己紹介



図6 生き物の採集



図7 生き物の説明

おわりに

河川での観察会で、カワムツ(図8)、ムギツク、ヨシノボリ類、ドンコなどの魚類と、アカハライモリ(図9)、エビ類、ミズカマキリ(図10)、コオニヤンマ、カワニナは多くの河川で観察することができた(表1)。また、絶滅危惧種のアブラボテ、カワヒガイ、アカザ、スナヤツメが生息する河川もあった。そのことから、丹波篠山市には貴重な自然が残っていることを再認識できた。私たちはこの貴重な自然を小学生に知ってほしいので、興味を持ってもらえるように工夫して生き物の説明をした。



図8 カワムツ



図9 アカハライモリ



図10 ミズカマキリ

一方、観察会ではオオクチバスやブルーギル、ウシガエルの幼生などの外来生物も確認することができ、外来生物が生態系を脅かす存在であることも小学生に知ってもらうことができた。

観察会のあと、子どもたちからお礼の手紙をもらったり、活動が新聞(図11)に載ったりしたことで私たちの活動が子どもたちの体験活動に貢献できていることに喜びを感じた。これからも、もっと多くの知識をつけて子どもたちに生き物のおもしろさと自然環境の大切さを伝えていきたいと思っている。



図11 新聞記事

表1 河川での観察会で見られた生き物

分類	種名				
魚類	カワムツ	オイカワ	アブラボテ	カマツカ	ムギツク
	カワヒガイ	タカハヤ	ドジョウ	シマドジョウ類	ナマズ
	ギギ	アカザ	オオクチバス	ブルーギル	ヨシノボリ類
	ドンコ	スナヤツメ			
両生類	アカハライモリ	ニホンアマガエル	ウシガエル(幼生)	ツチガエル	トノサマガエル
	シュレーゲルアオガエル				
爬虫類	ヒバカリ	ニホンマムシ	ヤマカガシ		
甲殻類	サワガニ	アメリカザリガニ	スジエビ	ヌマエビ	
昆虫類	ゲンジボタル(幼虫)	ヒメガムシ	コシマゲンゴロウ	ヒラタドROMシ(幼虫)	タイコウチ
	ミズカマキリ	コオイムシ	アメンボ	オオアメンボ	ヒシアメンボ
	ギンヤンマ(ヤゴ)	コオニヤンマ(ヤゴ)	コヤマトンボ(ヤゴ)	ハグロトンボ(ヤゴ)	サナエトンボ類(ヤゴ)
	トビケラ類(幼虫)	カゲロウ類(幼虫)	ヘビトンボ(幼虫)		
貝類	カワニナ	シジミ			

兵庫県版レッドリスト記載種
 外来生物